



平成30年度

超高齢社会に向けた 医療と介護の連携の推進

団塊の世代が後期高齢者となる2025年以降、医療や介護の需要がさらに増大することが見込まれます。この超高齢社会に向けて、医療ニーズを持つ高齢者であっても、住み慣れた地域で最期まで自分らしい暮らしを続けられるよう、地域で在宅医療・介護を一体に提供できる体制を構築することが重要です。

本研修では、地域の医療と介護の連携体制を、各市町村がどのように構築していけば良いかを考えます。

開催要領

日程 平成30年6月6日(水)～6月8日(金) (3日間)

場所 全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対象 高齢者福祉や高齢者が安心して暮らすための施策に携わる市区町村等の職員
3日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

募集人数 40人 募集人数を大幅に超えた場合は、申込期限後に抽選等をさせていただきますので、予めご了承ください。
なお、受講者の決定については、他の研修、セミナーの申込み・受講の有無にかかわらず、本研修単独で行います。

宿泊 研修所宿泊棟(宿泊型研修) ※外泊はできません。

経費 10,500円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食2回、昼食3回、夕食2回)、資料等にかかる費用です。
なお、事前準備・事前学習にかかる費用は含まれておりません。

申込期限 平成30年4月19日(木)まで ※申込後、4月当初の人事異動に伴う受講者の変更については、柔軟に対応します。

申込方法 JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申し込みください。
[Web申込み]が難しい場合は、受講申込書によりFAXでも受け付けています。
※受講申込書はJIAMホームページの書類様式集(<https://www.jiam.jp/doc/>)にも掲載しております。

受講決定 受講の可否については、開講日の約1か月前までに通知をお送りします。
経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

事前課題 研修受講にあたって、事前課題に取り組んでいただく予定です。詳細は受講決定通知書送付時にお知らせします。

● 問い合わせ先 ●

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL. 077-578-5932 FAX. 077-578-5906
[e-mail] kenshu@jiam.jp [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

平成30年

6月

6日(水)

11:00～ 入寮受付・昼食

12:30～ 開講・オリエンテーション

13:00～15:35

講義 超高齢社会にむけて、高齢者が安心して暮らせるまちづくり～医療と介護の連携～

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻 哲夫氏

老いても住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けられるまちづくりを進めるために、特に地域包括ケアの最大の課題である医療と介護の連携の強化と、そのために市町村が今、何をすべきかをお話しいたします。

15:50～18:00

演習 グループ討議① 東京大学高齢社会総合研究機構 学術支援専門職員 松本 佳子氏

在宅医療・介護連携推進における事業評価とPDCAを概説した上で、受講者同士の情報・意見交換を通じて、在宅医療・介護連携の目的・目標、地域の目指す姿について考えます。

18:00～ 交流会 夕食を兼ねて、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

9:00～15:10

事例紹介 医療・介護専門職の役割と地域の医療と介護の連携推進

コーディネーター:東京大学高齢社会総合研究機構 学術支援専門職員 松本 佳子氏

・都市中心部に開設した公設公営の在宅専門診療所の取組み

富山市まちなか診療所 医師 三浦 太郎氏

複雑化をます社会において、地域住民を支える医療、福祉、保健職の連携の重要性が増しています。さらに、住み慣れた地域で住民が暮らし続けられるように、自助・互助力を高めることも大切です。地域包括ケア拠点施設の一つとして開設した市直営の在宅専門診療所および医師としての役割についてお話しいたします。

・介護支援専門員、地域医療連携室での経験と
在宅療養連携支援センター「にしのわ」での実践

西東京市在宅療養連携支援センターにしのわ センター長・主任介護支援専門員 高岡 里佳氏

老健相談員、主任介護支援専門員、地域病院における地域医療連携室の立上げなど、ソーシャルワーカーとしての経験から、医療・介護連携相談支援窓口コーディネーターとしての活動と役割についてお話しいたします。

・ビュートゾルフ柏の地域看護実践

一般社団法人Neighborhood Care 代表理事 看護師・保健師 吉江 悟氏

看護師、保健師、生活支援コーディネーター、住民による通いの場運営等の立場から、在宅医療・介護連携推進事業、他の地域支援事業との関係も踏まえながら、地域の医療・介護連携推進の取組みについてお話しいたします。

15:20～17:00

演習 グループ討議② 東京大学高齢社会総合研究機構 特任研究員 吉江 悟氏

ロジックモデル(事業評価枠組み)を活用し、在宅医療・介護に関するデータ等から地域の現状や課題を把握し、成果に結びつく医療・介護の提供体制構築、関係機関の連携推進方策、およびその評価方法について演習を行います。

17:00～

課外演習

9:25～12:00

演習 発表、質疑応答、講評 東京大学高齢社会総合研究機構 特任研究員 吉江 悟氏

東京大学高齢社会総合研究機構 学術支援専門職員 松本 佳子氏

演習の内容を受講者全員で共有し議論を通じて、医療・介護の連携推進に向けた地域の体制構築とその事業評価について深めます。

13:00～14:10

講義 総括講義とふりかえり 東京大学高齢社会総合研究機構 特任研究員 吉江 悟氏

地域における医療・介護の連携の推進と事業評価、連携体制構築のための市町村の役割について、総括講義を行い、本研修のふりかえりを行います。

14:10～14:40 ふりかえり、研修アンケート記入、閉講

※吉江 悟氏は「東京大学高齢社会総合研究機構 特任研究員」及び「一般社団法人Neighborhood Care 代表理事」を兼務されています。

● 研修内容については、都合により変更になることがありますので、予めご了承ください。なお、研修についての最新情報は、JIAMホームページをご覧ください。